

「学生による授業評価」のまとめ 2006 年度秋学期

刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長
宇田 光

秋学期の「学生による授業評価」（以下、単に授業評価）は、2006 年 12 月から 2007 年 1 月にかけて実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに、厚く御礼申し上げます。

春学期と同様、秋学期も種別、専任・非常勤にかかわらず、1 教員 1 科目を選んで実施する方式です。そして今回、開始以来初めて、名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて 100% の実施率を達成することができました。

なお、授業評価の結果は毎回、「学生による授業評価のまとめ」冊子に記載されて、各教員に配布されています。また、両キャンパスの教務・学生関係部署窓口、図書館にそれぞれ冊子がそなえられ、学生による閲覧も可能となっています。さらに、授業評価の概要については Web ページ上で開示しています。

1 授業評価の実施方法

対象科目 全教員それぞれの担当科目のうち一科目が選ばれ、実施されました。両キャンパス総計で 532 科目が対象となりました。

なお、今年度秋学期から JABEE 申請のために、その関係科目は授業評価の対象としています。

質問紙

設問は 18 個あります。なお今回から、実際のマークシートには 19 番から 21 番までの番号が印刷されています。これは、数理情報学部・JABEE 申請準備委員会が指定する科目専用追加されたものです。それ以外の科目には、19 番以降は用いられません（JABEE 申請準備委員会が指定する科目においてのみ、別紙を配布しています）。

設問 1 から 3 までは、学生の授業参加（出席、予習復習など）を問う内容です。教員の授業運営や授業全体に関する設問 4 以降とは、性質が異なりますの

で、平均値は分けて算出しています。

これら 18 の設問に対して、次の 5 段階評価尺度を用いて評価してもらいました。「はい(5点)」、「どちらかと言えばはい(4点)」、「どちらとも言えない(3点)」、「どちらかと言えばいいえ(2点)」、「いいえ(1点)」。(なお便宜上、集計結果は、「各設問に対する評価値の算術平均」で表現しています。)

また、裏面は、次の a ~ d に関して問う自由記述欄となっています。

a この授業の良かった点、評価できること、b この授業の改善すべき点 c 授業環境(照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など)について、d その他

実施・回収手順 公平性・匿名性の観点から、教員は受講生の代表に実施を依頼。その代表者が回収し、まとめて事務担当部署に提出する方式を採っています。

作業手順 2006年12月～2007年1月実施 集計作業 教員へ集計結果を通知(1月) 教員から報告書提出(2・3月) FD委員会では結果の分析・検討(4月) 「まとめ」報告書の執筆・発行(5月)

2 集計結果の概要(2007年5月16日現在)

結果の概要は、括弧付きの頁部分に記載されています。

実施率 名古屋 100%(404科目)、瀬戸 100%(128科目)

報告書提出率 名古屋 99.75%、瀬戸 100.00%

各設問評価値の平均

項目全体の平均値は、4.10(4番から18番の平均値は4.19)です。4点は「どちらかと言うとはい」ですから、まずまずの結果ということになるでしょう。また、今回の授業評価では、3.0未満の評価を受けた授業は例年よりも少なく、3件に留まりました。授業評価の数字は、様々な要因により影響を受けますので、その分析には慎重さを要します。とはいえ、これらの数字から、授業の改善という視点からは好ましい傾向にあると考えられます。

特に平均値の高かった設問は、4番(授業の開始・終了の時間が守られてい

たか)、8番(声や音声機器の音は聞き取れたか)、15番(教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができたか)などでした。これらはいずれも、過去の授業評価でも比較的高い水準を示している項目です。

一方、とりわけ平均値の低い設問は、3番(予習や復習など、自主的な学習を行いましたか)でした。これも、過去の結果と同様です。

満足度(設問18)

設問18(全体としての満足度)の平均値は、4.16(名古屋4.19、瀬戸4.07)となっています。この項目は、全体を通して重要な項目ですので、最後に、特に図にして示します。図は、満足度の評定値に関する度数を示しています。「はい」(5点)と「どちらかと言えばはい」(4点)とをあわせると78%であり、全体として満足、あるいはどちらかと言えば満足、という意見が多いと言えます。しかし一方で、いいえ(1点)とどちらかと言えばいいえ(2点)とをあわせると8%です。こうした不満の声に、応えていかねばなりません。

3 個別教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、個別教員ごとの結果です。本冊子では、原則として1頁に2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

教員名、科目名・科目コード、登録人数、休講・補講回数、回答率など
なお、今回からは、処理数(実際に回答した人数)の受講登録者数に占める割合を、「回答率」と表記しています。授業評価を実施した当日の授業に出席し、かつ授業評価に回答してくれた学生の割合です。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性・妥当性に疑問が生じることとなります。

レーダーチャート2枚

右の図がアンケート提出者全員で集計した結果です。一方、左の図は項目1から3の評定平均値が3.0以上の学生(つまり積極的な態度で授業に臨んだと認められる学生)だけに絞って集計した結果です。

「アンケート結果を踏まえた授業評価」

各教員が今回の結果を踏まえて書いた報告です。結果の分析や、改善に向けた対策などが書かれています。自由記述も参照して、この報告を執筆していただきました。(自由記述は膨大な量になりますので、本冊子には記載されてい

ません。)

なお、一部の教員から手書き原稿や様式に印字された報告書も頂きましたが、原則としてワープロ入力しました。

4 授業の改善に向けて

授業評価はここ数年、安定して高い実施率を保っていました。しかし、両キャンパスでともに100%になったのは、今回が初めてです。また、報告書提出率も、100%に近い高い水準です。ご理解・ご協力に対して、あらためて深く感謝申し上げます。

授業評価のあり方に関しては、数多くのご意見を頂きます。確かに、項目を見直してはどうか、全科目を対象にすべきではないか、時期を見直すべきではないかなど、多くの視点があります。引き続き、改善に向けた検討が必要と言えます。ただ、あまり毎年大幅な変更をすると、異なる年度や学期のデータとの比較が難しくなります。また、すべての科目を対象にする方法では、実施から分析、結果を受けた報告などあらゆる段階での負担が激増してしまいます。回答する受講生の皆さんの立場から見ても、負担が大きすぎるように思います。

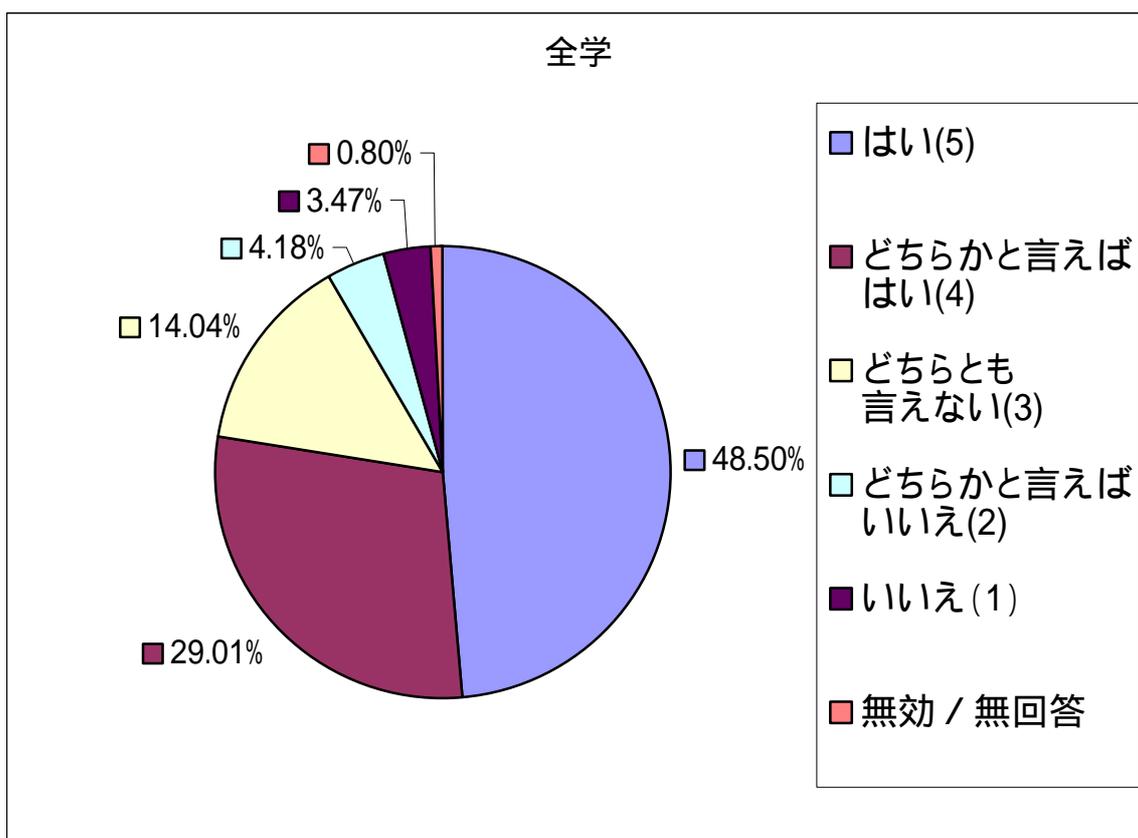
次に、「自主的な学習をしましたか」(3番)の数字は、いつも他の項目より低くなってしまいます。レーダーチャートを見ると、この部分だけが落ち込んでいる図が多く見られます。これは、まことに残念です。受講生がもっと勉強したい、という気持ちになる。このことこそが、授業の真の成果のあらわれと考えるからです。

FD委員会では現在、授業研究会などいくつかの企画を実施しています。しかし、公式なFD委員会の活動を支えるのは結局、一人一人の教員の自覚と、教員相互の日常的な研鑽であろうと思います。教員のみなさん、学生のみなさんの引き続いてのご協力をお願いします。

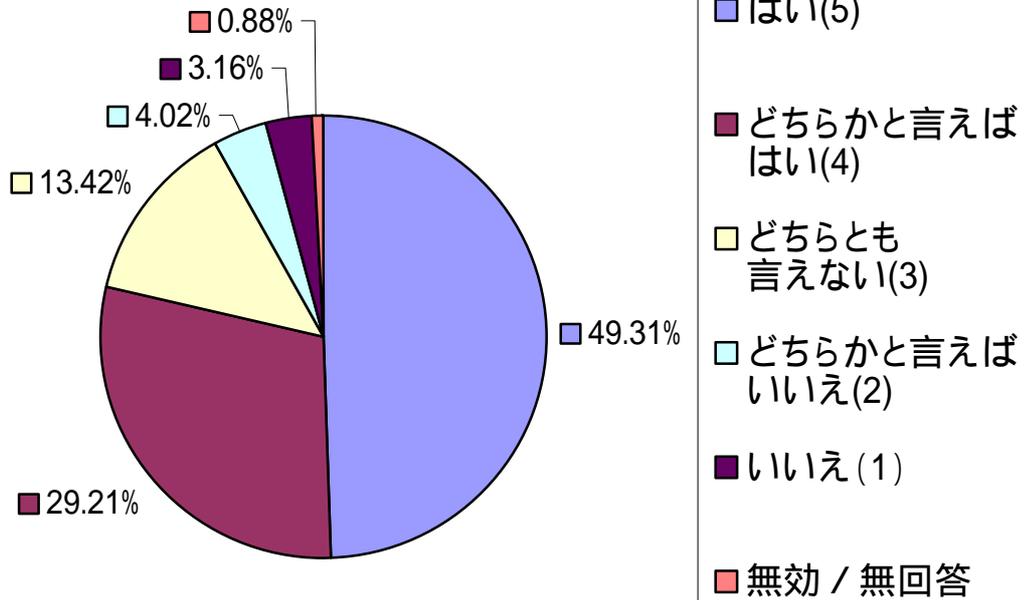
以上

「満足度」(設問項目番号18)の実数分布

キャンパス別 上段:回答数 下段:割合	総数	はい(5)	どちらかと言え はい(4)	どちらとも 言えない (3)	どちらかと言え いいえ(2)	いいえ(1)	無効/ 無回答
名古屋キャンパス	17660	8708	5158	2370	710	558	156
	100.00%	49.31%	29.21%	13.42%	4.02%	3.16%	0.88%
瀬戸キャンパス	5192	2376	1470	839	244	236	27
	100.00%	45.76%	28.31%	16.16%	4.70%	4.55%	0.52%
全学	22852	11084	6628	3209	954	794	183
	100.00%	48.50%	29.01%	14.04%	4.18%	3.47%	0.80%



名古屋キャンパス



瀬戸キャンパス

